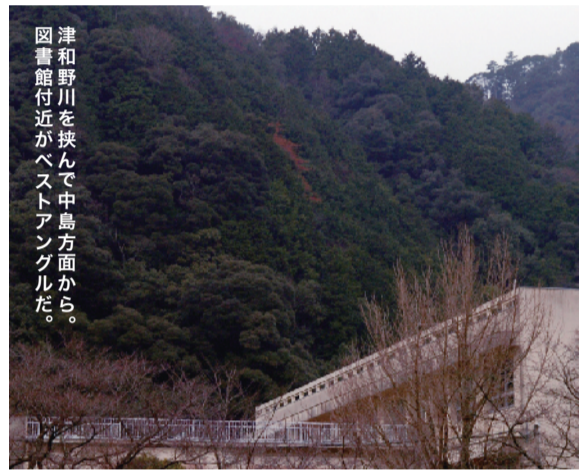




Live News

津高の「登龍門」現る



津和野川を挟んで中島方面から。図書館付近がベストアングルだ。

© 2011 Google Earth

辰年に、校舎の《恵方》に出現

成長や発展の年「辰」。先の見えない景気低迷、広がる社会不安など、なにかと暗い話題ばかり取り沙汰されるが、今年こそは辰の「絶つ」「立つ」にあやかり、ぜひとも転換の年であって欲しいものである。

そんな中、写真のような緑起のよいパワースポットが、昨年の暮頃から津和野高校の向かいの山腹に出現していることをご存知だろうか。

津和野高校の正門に、まるで大鼓谷稲成神社から津和野城址に向かって、紅の龍が駆け登るような雄姿が見える。赤い木と稜線が絶妙に絡み合い、このような「珍風景」を醸し出しているのだ。



(S54年度卒 青木)



世代やエリアを越えて Face book で広がる「津高の絆」

Featuring

去の懐かしい写真等が掲載されています。ここに集まる同級生・先輩・後輩のコミュニケーションの場となっており、例えば今日の話題(2012年2月14日)は ベルリンにて開催される森鷗外生誕150年を祝うドイツの式典に参加する、津高生徒の様子がリアルタイムで掲載されています。

これらの情報を見て「いいね!」ボタンを押ししたりシェアする事により、自分のウォール(掲示板)に記事が掲載され、またその記事を友達が見て情報を共有し、どんどんと輪が広がってきています。

ここまで読んでみても『ん〜、さっぱりわからん!』と思う方もおられるかとは思いますが、まずはfacebookに登録してみればいかがでしょうか。

パソコンでもですが、携帯電話・スマートフォンでもサービスが行われています。こんなものやるのは若い奴らだけだよ!とお思いのあなた、つい最近までユーザーが一番多いのは、30〜

60代なんですよ。最近は若いユーザーも増えてきたので、平均年齢は下がってきてますが、他のSNSは参加しづらいけど、Facebookは实名制で登録をするという安心感があるのかもしれない。

このSNSが全てとは言いませんが、時代にあった良いPRツールであることには違いありません。それと同時に発信する情報も吟味しなければなりません。一方的な発信ではなく、人の口コミで情報が伝わりますので、情報プラス「思い入れ」も入り、良い事かもしれません。

あなたも『島根県立津和野高等学校』の宣伝マンになって、懐かしい同級生を見つけて見ませんか?

(S59年度卒 吉永)



Facebook(フェイスブック)とは、2004年にアメリカの学生向けにサービスを開始したSNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)といわれるもので、社会的ネットワークをインターネット上で構築するサービスのこと。人と人とのコミュニケーション、友人・知人間のコミュニケーションを促進する手段や場、あるいは趣味や嗜好、居住地域、出身校、「友人の友人」といった自身と直接関係のない他人との繋がりを通じて、新たな人間関係を構築する場を提供しているサービスです。

我が津和野高校も、昨年2011年より校長先生をはじめとした諸関係者の管理の下に『島根県立津和野高等学校』のページが開設されました。現在、卒業生を中心として約200名の方が『いいね!』を押して参加されています。

この200名は先生との繋がり、同級生との繋がりで出来た輪であり、内容は今の津和野高校の様子、オープンキャンパスの募集要項、過



島根県立津和野高等学校 同窓会会長 澄川照一
1月30日、「観測史上最低」の気温や最大の積雪のニュースが流れ、新潟県の妙高市や津南町は3m程の積もった雪の様子を映していました。節分、立春だというこの時期、厳しい寒気が日本列島を覆っています。はるか遠い日々になってしまった様な一年前を「やはり寒い冬だった」と思い起こしていただきます。
ところで2012年度の大学入試センター試験が1月14日15日に実施されたのを皮切りに、私立大学の一般入試や国立大学の個別(2次)試験が3月まで続きますが、3年生卒業生諸君は志望校を目指して頑張っていた方がいいと思います。
さて同窓生の皆様におかれましては益々ご健勝で、ご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は同窓会の振興のためにご理解ご協力いただき有難うございます。
そして、すでに全国の同窓生の皆様にご案内をいたしておりますように、会員名簿を発行することになりました。新たに歴史が積み重ねられたことに、大きな喜びを感じております。この名簿につきましては平成17年4月1日から個人情報保護法が施行され、個人情報の有効性に配慮しながら、個人の権利利益を保護するようになりました。本会では母校と同窓生をつなぐ絆として、また共に築立った仲間を互いに確認する資料として、会員名簿は必要不可欠なものだと考えております。

今回の会員名簿発行においても、この法精神を十分に尊重し、慎重に会員の個人情報を取り扱うよう努めております。お知らせいたすと共に、今回の名簿が母校への郷愁を駆り立て、会員相互の懸け橋となり、同窓会活動の活性化につながっていきますようお願いいたします。
最後に会員の皆様の今後ますますのご活躍とご多幸を祈念して挨拶いたします。

ごあいさつ